

令和6年1月号 (第270号)

# 利賀小だより



発行 南砺市立利賀小学校 <HP> <http://www.toga-e.tym.ed.jp/> <Mail> toga-es@tym.ed.jp

## 「読書大好き利賀っ子」を目指して

図書館教育担当 岸澤 靖子

毎週火曜日と木曜日の朝のスキルタイムの時間は昨年度に引き続き、読書の時間です。10分間という短い時間ですが、全校児童が図書室に集まり、静かに本に向き合う大切な時間になっています。図書室のおすすめコーナーには季節や年中行事に応じた様々なジャンルの本が展示されています。新刊コーナーには図書館司書助手の手作りのポップが飾られていて、子供たちが思わず読みたくなるような工夫がされています。また、低学年と中学年は週に一回ずつ読み聞かせを行っています。毎回、工夫を凝らした読み聞かせに子供たちは身を乗り出して聞き入っています。2学期には読書週間（10月27日～11月9日）に合わせて、子供たちが運営する生活サポート委員会の主催で「読書でビンゴ」を行いました。9つのジャンル全てを制覇した子供がいたり、読書週間後にあまり親しみのなかったジャンルの本や長編作品を読むようになった子供の姿があったりして、いろいろなジャンルの本に親しみ、視野を広げる大切なきっかけになりました。



前に文書でもお知らせした通り、来年度から、学校図書館は南砺市立図書館と共通システム化されます。これにより、子供たちは図書館まで出向くことなく、学校では個人用タブレット端末で、家庭ではパソコンやスマートフォン等を利用して自分で借りたい本を予約することができるようになります。また、予約した本の受け取りや返却も学校で行うことができるようになります。授業での活用や読書活動の機会がより増え、子供たちにとって本がより身近に感じられるようになることを期待しています。



近年、インターネットの普及により多様な情報を簡単に手に入れられるようになり読書の機会が減っているようです。しかし読書には、知識を増やすだけでなく、想像力を養うというよさがあります。文章のほとんどは想像力なくしては読めませんし、文章にはない登場人物の気持ちや筆者の意図を想像しながら読むこともあります。気持ちを想像するということ、他人に共感したり、思いやりをもったりすることにもつながって、相手の気持ちに寄り添える精神的な成長につながることも期待できます。子供のころに出会った一冊が人生の宝物になることもあります。子供たちがじっくりと読書を楽しめるように今後も働きかけていきたいと思っております。